

第4期武蔵野市健康推進計画・食育推進計画策定委員会（第3回）  
議事録要旨

■日時 平成29年9月1日（金）午後7時～9時

■場所 保健センター 地下1階多目的ホール

■出席者：第4期武蔵野市健康推進計画・食育推進計画策定委員会委員

北島勉委員長・川南公代副委員長・長谷川ひとみ委員・辰野隆委員・菅野淳子委員・大田静香委員・原純也委員・日高津多子委員・守矢利雄委員・北原浩平委員・藤澤節子委員

事務局 武蔵野市健康福祉部長・健康課長・地域支援課長・地域支援課副参事・高齢者支援課相談支援担当課長・健康課職員・高齢者支援課職員

■配布資料

資料1 健康推進計画策定に係る論点 参考資料

資料2 健康づくり推進員へのヒアリング結果まとめ（主な意見）

資料3 第4期武蔵野市健康推進計画 論点に係るシート（まとめ）

資料4 武蔵野市食育推進計画策定にあたって 現状と方向性の整理

資料5 武蔵野市ライフステージ別食育事業一覧

資料6 食に関する計画（①市立保育園、②小学校）

資料7 平成28年度クックパッド武蔵野市の公式キッチン実施状況報告

資料8 第2回議事録要旨（案）

（参考資料）

・武蔵野市 食育のしおり（当日机上配付）

## 1 開会

傍聴希望者 なし

## 2 議事

(1) 第4期武蔵野市健康推進計画策定にあたっての論点

**委員長** 5つの論点について、それぞれで議論をしていきたいと思う。

**委員** 人材バンクの質の担保のための提案はよいと思う。ただ、その更新のために研修会や講習の受講を必須にするのは、ハードルが高くなるという印象を持った。また、調査結果からみられた40歳～60歳の世代が、自分で運動しない理由として「時間がない」を挙げているが、その具体的な対応策が難しいと改めて感じている。

**委員** 自分自身の健康維持もかねて、子育て中に地域のラジオ体操に通ったことがある。参加すると、地域の人たちと世代を超えて交流し運動することができたのはよかった。

**委員** 専門人材が確保されていることを市内外にアピールするためには、人材バンクの質の担保は必要だと感じている。また、地域に必要とされる専門人材の発掘や育成ということでも重要ではないかと思う。

**委員** 市民が自分で情報を探しやすく、コンタクトしやすい手段があればよいのではないか。そこに、健康づくり推進員の発信する情報や市民活動が載っていて互いに連携があると、運動をすることによる何かしらの効果を感じることができるようになるのではないか。

**委員** 市が行う健康づくりの事業の多くは、主に平日昼間に開催されていて、仕事で忙しい人は参加しにくい。そこで、地域団体の事業に参加できるようにすることも考えられる。そのような団体活動への支援体制をつくることも必要ではないか。また、健康づくりに関する正しい役立つ情報を発信することで、事業に参加できない人への対応も可能になるのではないか。

**委員** 健康づくり推進員がいるが、20名前後では地域の健康づくりの核としては人数が少ないのではないか。1人しかいない地域となると、コミセンや団体等との協働や事業の広がりに結びつかない。また、40歳～64歳は、これ

までの行政施策では、あまり対象となっておらず、それぞれが民間施設等で運動をするという取り組みが普通だったと思う。また、若い世代は地域外での活動も多い。そのような中で参加の輪を広げるには、どうしたらよいかを考える必要があるのではないか。

**委員** 健康づくり推進員は50～60歳台が15人と資料にあるが、年齢層が高い人が集まっている印象が強い。もう少し年齢層を下げる意味で、地域密着の活動をしている地元大学の学生との活動はできないか。また、「栄養ケアステーション」という取り組み提案も出されているが、専門家からきちんとした話を聞くことが重要だと思う。

**委員長** 市内での空き家の状況はどのようになっているのか。

**事務局** 庁内に空き家対策担当課が設置され、状況の把握が始まっている段階である。

**委員長** 大学生が住み、地域活動に参加するコミュニティを作っている事例も全国にはある。武蔵野市でも、同様の取り組みを行い、地域の健康づくり推進員さんとの活動もあればよいと感じた。

**副委員長** 情報発信協力登録パートナー登録事業の取り組みを拡充させることで幅広い情報発信や連携ができるのではないか。

**委員** パートナー店舗や事業者・団体等との連携をはかり、事業周知にとどまらず、健康づくりの機会や場の確保について検討していくのも、地域資源の活用のひとつだと思う。

**委員長** 健康サポート企業を募るといった新しい連携の可能性もあると感じる。

**委員** 若者が運動しないというが、ペットを飼っている人は多く、夜に帰ってから散歩をしている姿をよく見る。ペットも健康づくりのキーワードの一つになるのではないか。

**委員** 社会福祉協議会の居場所づくりの活動との連携も提案したいと思う。

**委員長** 次に論点3「健康寿命・予防を重視した施策の推進」にうつりたい。

**委員** 具合が悪くても受診していなかったり、健康診断を受けない、特に若年層の受診勧奨が重要だと思う。健康寿命の真の意味は、どんなリタイア人生を送ることになるのか、ということ。医師からの正しい指導を早い時期から受けないといけないことや、症状が悪化してからでは間に合わないという視点で、医師たちがふだん指導できているか、健康づくりという観点で思うことが多い。

**委員** メタボリックシンドロームのデータについて、男女別のデータはあるのか。

**事務局** 後日回答をさせていただく。

**委員** 栄養が最も必要な年齢は、男女ともに10歳台がピーク。30～40歳代は食べ過ぎている可能性があるので、年を重ねるとともにどんどん減らしてもよいと伝えるべきだと思う。

**委員** メタボリックシンドローム出現率の資料の説明では40歳台前半が強調されているが、30～50歳台で広く課題があると思う。ただ、予備軍が40歳台前半で一気に増える、というのはそのとおりで、予備軍が徐々に顕在化していく状況といえる。また、武蔵野市は単身世帯比率が高く、非婚化の進展もあり今後単身世帯の高齢化が予想されるので、単身世帯をターゲットとした事業も必要ではないか。

**委員** 健康無関心層といわれている層は意識が全くないわけではないが、そのための対策をやりたくてもできないのが現実だと思う。単純に啓発活動等に来てください、では向いてくれないので、もっとその層に寄り添って働きかけていく必要があると感じている。その一つとしてSNSを活用して著名人の健康づくりを代理体験することで、関心を持つというやり方もあるのではないか。

**委員** 活動を通じて地域で廻っていると若い人でも運動不足や食生活の乱れを感じている。活動に参加するためのインセンティブ（おまけ）があればよいのでは、と感じている。

**委員長** 若い人たちが多く使っているスマートフォンで受診の申し込みはできないのか。

**事務局** スマホから申し込み出来るものもある。

**委員** 郵送の検診は行っているのか。忙しい世代には有効かと思う。

**事務局** 今現在は郵送で完結するものは行っていない。

**委員** 武蔵野市は横のつながりが作りやすい市だと思う。関係性があると、互いに啓発を促進しやすいので、継続しやすい風土づくりができるのではないかな。

**委員** 市内ではいきいきサロンが 17 カ所あり、横のつながりもあると感じている。

**委員長** 次に論点 4 と 5 「市民の生命と健康を守る医療体制の確保・充実」「多様な健康危機への対応」にうつりたい。

**委員** かかりつけ医の大切さや、地域医療をいかに守るかということについての啓発が必要である。そのためには市民に今の地域医療の課題を広く伝える必要があると感じている。

**委員** 病床問題は市内だけの議論では解決できない、市域をこえた問題である。また、看取りを含めた在宅医療については医師会でも危機感を持っている。論点 1 で挙げられている「栄養ケアステーション」の提案や、「人材バンクの質の担保」とも連携する論点だと感じている。

**委員** 論点 4 の図の意味を教えてください。

**事務局** 吉祥寺駅周辺で今の病院がなくなると、どのくらいの距離になるのかを示しているもの。

**委員** 車での移動を想定すると、この距離はあまり意味のないものを感じるのだが。三鷹駅を拠点にしたらどうなのか。

**事務局** この図は地域医療ビジョン 2017 に書いてあることを示している。吉祥寺地区の医療の維持についての資料である。

**副委員長** 在宅医療が必要な時には、以前からつながりの身近な、かかりつけの先生に在宅で看取ってもらうことが実現できる地域になればよいと感じる。

**事務局** 今後、介護医療院のカテゴリーなどもできるが、在宅医療を充実し、一般病院や療養病床から地域に戻ってきたときの受け皿としてのかかりつけ医は非常に重要なので、健康推進計画でも検討してもらいたい。今現在、武蔵野市は地域包括ケア病床がないというのも課題である。

**委員長** 一人ひとりの健康の定義に「看取り」まで含めることは、ひとつの重要な視点かと思う。

**委員長** 次に論点 2 「妊産婦と乳幼児のいる家庭への支援の充実」にうつりたい。

**委員** 妊産婦は 20～30 歳台が多いため、野菜カードは武蔵野市の地産地消につながるいい取り組みだと思う。

**委員** 市が行っている各種取り組みの周知が課題だと思う。市では十分していると思うが、もっと伝わるやり方があればよい。

**委員** 一つひとつがとぎれとぎれで、切れ目ない継続が難しい。個別のニーズは多いが、病院で相談すればよいという意識もあり、行政の支援があまり活用されていないのも実態である。市民から相談を個別でできるところを増やす必要があると思う。

**委員** 論点 3 ともかかわるが、禁煙はこの時期に勧奨するのがよい。妊娠・出産を機に禁煙しませんかということが勧められる。そのための支援があればよい。

**副委員長** 母子健康手帳交付時から行うことが「切れ目ない」の範疇かと思う。

**委員長** 先輩や経産婦といった母親同士の交流はあるのか。

**委員** 子ども子育ての事業があるが、交流に限定したものはないと思う。

**事務局** 今の委員の発言の通り、保育園でのプレママ広場がある。利用が少ない事業があることが課題でもあるので、今後は連携を検討したい。

**委員** 専門職による面接が増えているが、メリットが表れてきているものがあるのか。

**事務局** 両親学級である「こうのとりの学級」の利用者が増えているといった効果がみられている。

(2)武蔵野市食育推進計画策定にあたって 現状と方向性の整理

□事務局より資料に沿って説明

**委員** 市として栄養士を配しない理由はなぜなのか。また、資料 13 ページ目の栄養士の連携した多職種連携についてだが、連携の範囲を聞きたい。

**事務局** 採用しない方針については、市の人材育成基本方針に拠っており、市職員が企画立案をメインで行い、現場でやるのは外部の力を得るという大きな考えがある。資料 13 ページ目の栄養士の連携の範囲は、いまのところは行政内部の栄養士のことである。

**委員** 市が企画立案という方針はわかるが、専門的なところを丸投げされても、われわれも通常業務があるため、困る部分があることは理解してもらいたい。地域連携のなかで、理念と役割を伝えるのは行政だと思っているのでそのような視点でコーディネートしてもらいたい。

**委員** どのような食情報を発信できるとよいのか。

**事務局** 情報が氾濫しているなか、正しい情報とは何かを伝えることが重要だと感じている。

**副委員長** 情報啓発に活用されているクックパッドであるが、アンケート結

果ではすごく活用されているという反面、認知率は低い。両方の事実としての検討が必要ではないか。

**事務局** ネットを使っている人には有益な情報を出している反面、市民への認知度は低いということでもあるので、今後徐々に認知率をあげていきたい。

**委員** 多職種という資料の中に歯科医師は入るのか？

**事務局** ここの連携は行政の職員ということで理解してもらいたい。

**委員** 理念に沿った計画になることを期待している。

**委員** クックパッドのレシピは離乳食などでも使えるのだが、妊娠届出時に伝えたりしているのか。

**事務局** 健診時にチラシなどを配布している。

**委員** 赤ちゃん相談の時の離乳食の質問や食生活、ママの栄養といったことの情報として伝えられる。クックパッド武蔵野バージョンにそのような離乳食情報と載せると、こういうところを見るといいと言えるので、ぜひ拡充をお願いしたい。

**委員** 基本目標にある共食の充実を考慮頂けるとありがたいと思う。

**委員** 疾患別食事指導の質問ができるようにしてもらえるとよい。

**事務局** 健康課へ問い合わせがあった場合は、医師・保健師・栄養士などからの食事指導を含めた健康相談事業の活用を勧めている。相談の周知を引き続き考えていきたい。

**委員** 健康づくり事業団の食育事業をみても、親子で楽しみながらの体験は貴重であり、若い世代の食育推進にとって、学齢期前を含め、そのような体験や積み重ねが重要だと感じている。

□次回の日程 平成 29 年 9 月 25 日（月）午後 7 時

**事務局** 次回は4回目。時間場所は同じ。また、ほかの意見等は形式は問わないので事務局までお願いしたい。

閉会